

1~3.名古屋ウィメンズのゴール後、観客に笑顔で応える関根選手。メダルはティファニーがデザインし、名古屋市の花であるユリがあしらわれている。表彰式では盛大な拍手に包まれた。4.招待選手として出場した初のハーフマラソン(仙台) 5.寮併設のトレーニングルームで 6.羽田小学校ランニング教室の1カット



関根花観(せきねはなみ) 1996年2月26日町田市生まれ。金井小、金井中出身。2014年日本郵便に入社、日本郵政グループ女子陸上部の1期生として活躍。2016年リオデジャネイロ

五輪女子1万メートル日本代表。名古屋ウィメンズマラソンでは2時間23分07秒で初マラソン日本女子歴代4位にランクイン

特集 3 陸上選手 関根 花観

TOKYO 2020を目指す 22歳のオリンピック

2018年3月、名古屋ウィメンズマラソンで初マラソンにして日本勢トップの3位でゴールした日本郵政グループの関根花観選手。リオ五輪では1万メートルに出場しさらなる成長が期待される。マラソン界の逸材だ。目指すは2度目の夢の舞台。そして、その先は――。



小さい頃から活発で、4歳からダンスを、小学2年生でソフトテニスを始めた関根花観選手。真っ黒に日焼けしたショートヘアの女の子は、よく男の子に間違えられた。家から車で20分ほどの店に母と買い物に行くことになったとき、「ママ、私、走っていきな〜」とそう言うと勢いよく走り出した。「よく走る子だった。この前も突然『ただいま!』って帰って来て。」20キロ以上離れた寮から走って帰ってきた娘に、母の美咲さんは今でも驚かされている。

陸上との出会いは中学生の時。ソフトテニス部に所属していたが、助っ人として出場した市の陸上大会で優勝。続く都の大会でも好成績を収め、2足の草鞋を履くことになる。2年生になる時に努力するだけ結果がついてくる陸上を選んだ。3年生になり1500メートルの全国大会で14位。都道府県対抗駅伝で東京都代表として3区区間賞。高校は仙台育英高校に進学し、高1の全国高校駅伝では区間4位。その後、東日本大震災の影響もあり、愛知県豊川高校へ転校。陸上の強豪校で走り磨きをかけ、日本の将来を担うトップランナーに成長していった。

現在は日本郵政グループに所属し、寮暮らしをしながら朝は5時前に起きてウォーミングアップを終えて全体の朝練習に臨み、午前中は郵便局で働いている。

2016年は1万メートルでリオ五輪に出場した。世界のペースを肌で感じ、圧倒された大会だったが、その後ずっとやりたかったマラソンに転向。国内外での合宿で順調に練習を積み重ね、着実に力を付けてきた。「名古屋ウィメンズマラソンでは力が出せたと思います。ただ、海外の選手には全く付いていけなかったから、もっとスピードを磨かないと。2時間20分は切りたいですね。」「まだ70%の走り」と監督に言われ、大きな伸びしろがある彼女だが、決して楽観視していない。自身の強みは「大きな怪我もなく、続けていられる身体」だと自己分析し、ライバルは誰でもなく、自分の心の中の折れそうになる気持ちだという。

「夢は東京五輪。そのために、まずはMGC*で勝ち抜くことが当面の目標。その先ですか?」と言うと、ちょっとだけ時間を置いてから「子どもが大好きなので、保育士になりたいんです。」と笑った。謙虚で決して気負わない、マラソン界のニューヒロイン。2つの夢を抱き、今日も彼女は走り続ける。

写真提供元: 日本郵政株式会社

*MGC: 2019年9月15日に開催予定の東京五輪マラソン代表選考会。指定の大会で順位とタイムを満たした選手のみが出場できる